中間の歌の週第4番
詩篇 127: 不安な時の歌
ボー・スターン・ブレイディー
2024年・10月・13日

昇りの歌。詩篇 127 章。レビュー

まずは始まりから始めましょう。この詩篇の始まりの前には、表題と呼ばれるものがあります。「ソロモンの昇りの歌」。これらは元の原稿に書かれており、追加ではありません。（歴史：ダビデ/ソロモン。神の臨在のために家を建てる任務を負った。ダビデは戦士だったが、家を建てることはできなかった。ソロモンは知恵の人だった。彼がそれを建てた。その建設については歴代誌下2-5章で、献呈については6章で読むことができる。この歴史は、この歌が私たちに伝えようとしていること、私たちの中に築こうとしていることを理解する上で重要だと思う。これがソロモンのために書かれたのか、ソロモンによって書かれたのかは関係なく、神の家について書かれていることが重要だ。何かを建てることが大きなことであるとすれば、それは神の家だ。他のどの建築プロジェクトにも匹敵しない…だからこの歌は、家を建てることの意味について話していることを理解することから始まり、私たちがどこに向かっているのかの手がかりを与えてくれる。それでは読んでみよう:

“主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい。主が町を守られるのでなければ、守る者のさめているのはむなしい。あなたがたが早く起き、おそく休み、辛苦のかてを食べることは、むなしいことである。主はその愛する者に、眠っている時にも、なくてならぬものを与えられるからである。見よ、子供たちは神から賜わった嗣業であり、胎の実は報いの賜物である。壮年の時の子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。彼は門で敵と物言うとき恥じることはない。”
詩篇 127:1-5 口語訳

もしこの詩篇が肖像画だったら、色彩は鮮やかで、描写は明瞭で感情に訴えるものになるでしょう。この詩篇では4つのことが取り上げられています。3つは実体があり触れられるもので、1つは実体がありませんが、非常に力強いものです。実体のある3つとは、家、都市、そして子供たちです。実体のない1つは不安です。具体的には、不安な労働です。

これらを見ていきましょう。なぜなら、それらは切り離されていないからです。著者はここで、自由と実りへの道を示すために論拠を構築しています。

この節の「家」という言葉は、家と家庭の両方を意味します。

建物は、家具から家族まで、多くのものを収容することができます。家は美しくて華やかでも、家庭のようには感じられず、質素で小さくても、暖かさと生命力と活力にあふれています。歓迎とともに。

ソロモンは主の臨在のための家を建てる責任がありました。神殿です。エルサレムの神殿は壮大でした（事実）。それらの詳細はランダムではなく、神からソロモンに与えられたものです。彼は神が住むのに十分なほど壮大なものを切望して作ろうとしていたのではなく、単に指示に従っていたのです。

家は安全と住まいの両方のためです。保護のためであり、また供給と養育のためでもあります。家は個人的なものです。私たちの心にとって最も大切なものです。我が家ではサバイバル番組が大好きですが、優先順位は、シェルター、水、火、食料です。シェルターは生き残るための最優先事項です。ですから、頭上に屋根を見つけたり、屋根を維持したりすることは、大きな不安を生み出すものであることは当然です。家を建てることは、比喩的にも文字通りにも、ほぼ常に、ある時点で何らかの恐怖や涙、緊張を生み出します。自分の家やその中にあるものについて考えるとき、どこに最も不安を感じますか？不安な労苦ですか？イスラエル人が祭り、神の善良さを祝うために向かったときに歌われたこの詩篇は、私たちが建物の中で神の代わりになることはできないことを彼らに何度も思い出させることを目的としています。神がそこにいなければ、私たちは時間とお金と筋肉を無駄にしていることになります。これは神の仕事です。神が建てるのです。（私たちは子供たちを守りますが、子供たちが成長し、家を出ていくと、やがて、おそらくは大小さまざまな瞬間に遭遇します。その瞬間に、私たちは次のことを決めなければなりません。主がこの家を建てることを信頼しますか？お金が足りず、やりくりの仕方がわからないとき、「主がこの家を建てることを信頼しますか？」雑誌に載っているような家を、私たちが築き上げた期待に応えたり、近所の人に感銘を与えたりするために、働くことに疲れ果てたとき、「主がこの家を建てることを信頼しますか？」家は安全を提供するはずなのに、建物が不安や恐怖を生み出しているときに、ジレンマが生じます。私たちは歌を歌いながら、次のことを思い出します。主がこの家を建てない限り、私たちのすべての仕事は無意味になります。私は、この教会で、空っぽの廊下を歩いていると、週日にそれを感じます…主がこの家を建てない限り…

次に、この詩篇は都市について語っています。都市は家と同じ目的を持っていますが、規模はもっと大きいです。都市は私たちの家と人々のアイデンティティと安全を表しています。都市は商業と政府を表しています。実際、都市政府は国家政府よりも私の生活に大きな影響を与えています。誰かが私の家に侵入している場合、私はワシントン DC に電話するのではなく、警察に電話します。子供たちの学校で問題がある場合、米国大統領に電話するのではなく、学校の校長に電話します。都市内の政府は私たちの平和と繁栄に大きな影響を与えています。この詩篇には、日の出を待ち、心配し、希望を抱いている都市の警備員の姿が描かれています。光が来ることを。彼は都市の壁のどこかに陣取っていて、希望を待っています。彼の不安、彼の不安な労苦はほとんど感じられます。しかし、この歌はこう言っています。「主が見守ってくださらなければ、誰が見守ってくださってもかまいません。」

私の街の政府とは何でしょうか。私の平和を支配するものは何でしょうか。私は自分の安全を保ってくれると期待して、自分の生活の周りにどのように壁を築いてきましたか。そして、それらのメカニズムが、イエス王の保護を信頼することを妨げているのでしょうか。私たちはみな、何かを避けるために自分の生活を管理する方法を持っています。危険を避けたい人もいれば、退屈を避けたい人もいます…しかし、私たちには皆、方法があります。私は安全と安心を好むので、それに向かって構築します。お金を節約し、警報システムを備え、夜は車のドアに鍵をかけます。自分の足元に注意し、自分の命を守るためにいくらかの仕事をしますが、最終的には、イエスの善良さを信頼する意志がなければなりません。そうでなければ、そのすべての仕事は不安な苦労になるでしょう。

詩篇は「働くな」とは言っていません。「見守るな」「建てるな」。詩篇は私たちに、イエスなしでそれをしてはいけないと告げています。これにはイエスが必要です。自力で成功した男性や女性はいません。そして、その理由を教えてくれます:

“あなたがたが早く起き、おそく休み、辛苦のかてを食べることは、むなしいことである。主はその愛する者に、眠っている時にも、なくてならぬものを与えられるからである。”
詩篇 127:2 口語訳

この聖句は、仕事が無駄だと言っているのではありません (聖書は繰り返し、一日のよい仕事に拍手を送っています)。仕事に対する不安が無駄だと言っているのです。不安な労働はお金や食べ物を蓄えるかもしれませんが、私たちの平和と喜びの貯蔵庫から奪い去ります。それは、神との関係と神を信頼する能力に亀裂があることを明らかにします。詩篇作者は、不安に対する解毒剤は休息であると語っています。休息が命令されているのには理由があります。神が仕事に反対しているからではなく、私たちが生産の奴隷になることを決して望んでいないからです。安息日は、もっと、もっと、もっとという文化に対する抵抗です。

イエスが弟子たちに語った最も長くて美しい教えの一つは、まさに同じことについてである:
“それから弟子たちに言われた、「それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようかと、命のことで思いわずらい、何を着ようかとからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさっている。からすのことを考えて見よ。まくことも、刈ることもせず、また、納屋もなく倉もない。それだのに、神は彼らを養っていて下さる。あなたがたは鳥よりも、はるかにすぐれているではないか。あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。そんな小さな事さえできないのに、どうしてほかのことを思いわずらうのか。野の花のことを考えて見るがよい。紡ぎもせず、織りもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。きょうは野にあって、あすは炉に投げ入れられる草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。あなたがたも、何を食べ、何を飲もうかと、あくせくするな、また気を使うな。これらのものは皆、この世の異邦人が切に求めているものである。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要であることを、ご存じである。ただ、御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであろう。恐れるな、小さい群れよ。御国を下さることは、あなたがたの父のみこころなのである。”
ルカによる福音書 12:22-32 口語訳

あなた方に王国を与えることは父の喜びです。神の王国全体があなた方のものです…あなたの働きは良いものです。私が神の王国の利害関係者であると見なすとき、私は自分の働きを違った見方で見ます。(ストーリー)

最後に、この歌は子供についての話に移りますが、これは興味深く、適切な内容です。なぜなら、子供を育てること以上に労力や心配を要することは他にないからです。彼は約束から始めますが、それは本当に良い約束です。

“見よ、子供たちは神から賜わった嗣業であり、胎の実は報いの賜物である。壮年の時の子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。彼は門で敵と物言うとき恥じることはない。”
詩篇 127:3-5 口語訳

これらの聖句はすべて贈り物です。すべて約束です。子供は贈り物です。子供は報酬です。子供は矢のようなものです。子供は喜びをもたらします。子供は守るためだけではなく、保護するためにも存在します。子供は、父の家を建てるパートナーとして良い仕事に集中させてくれます。私たちは未来のために建てます。これから起こることのために建てます。そして、子供に一緒に建てるよう勧めます。子供は戦争の一部であり、私たちがこの世界で行っている仕事の一部です。

子供はあなたの睡眠と時間を奪い、時には平和を奪います。子供は親や祖父母のものですが、結局、聖書の言葉は真実であり、揺るぎません。主が家を建ててくださらなければ、私たちの不安な仕事は無意味です。私たちは神を家造りと子育ての世界に招き入れなければなりません。何をすべきか迷っている場所や、何をすべきかすでにわかっていると思っている場所にも神を招き入れなければなりません。私たちの子供は贈り物なのです。

イスラエルの子供たちと一緒になり、イエスに向かう旅の基盤にこの歌を歌い込むことで、私たちは何を得ることができるでしょうか。

働きなさい、しかし不安にならないでください。
苦労しなさい、しかし紡ぎすぎないでください。
これから受け継がれる遺産の強さを信じてください。

この 3 つのことから私たちは何を得ることができるでしょうか。

神を信頼してください。

神を信頼してください。ほとんどの場合、それはそのことに帰着します。 自分にとって最も大切なものを神に委ねていますか。 非常に重大なことのように感じられるものを神に委ねることができますか。この歌は私たちにこう告げるために戻ってきます。「あなたはできるし、そうしなければならない。それが安息への唯一の道です。 それは全地の喜びにつながる長い従順です。

交わりと応答。